

連携ニュース

都立府中病院から都立多摩総合医療センターへ

多摩総合医療センター院長 青木 信彦

若 葉の輝きが目に鮮やかで、過ごしやすい季節となりました。

去る2月27日、都立府中病院は都立多摩総合医療センターへ移転することができました。

この移転前後の病院機能の制限につきましては、地域医療機関の先生方ならびに職員の皆様のご理解と協力をいただきました。この場をお借りしてあらためて感謝申し上げます。

この新病院の構想が世に出たのは平成13年ですので、「足かけ9年」かけて完成したことになり、私どもにとっては感慨ひとしおでございます。

さて、新病院は3月1日にオープンしましたが、まだまだ未整理な部分や不足するものも多く、フルオープンとなる8月を目指して職員一同で奮闘しているところでございます。

新病院の医療機能の3本柱は①救急医療 ②がん医療 ③総合周産期医療ですが、何よりも優先して先生方に信頼される東京E R・多摩を主軸とする総合診療基盤の充実・強化を図り、多摩地域の医療レベルの向上を担ってまいりたいと考えています。

人口400万人を越える多摩地域はまだまだ医療施設が十分とはいえず、今、多摩総合医療センターの役割の大きさを実感しているところです。

今後とも多摩総合医療センターの運営につきましては先生方のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

新病院開設後に多くの方々から「みんなに愛されてきたカメ池はどうなるのですか」という質問をいただいています。旧府中病院名物のカメ池と亀は引き続き、多摩総合医療センターがお世話させていただき、憩いの場としてご利用いただきたいと存じます。

都立多摩総合医療センターと同様にカメ池もよろしくお願い申し上げます。



東京都認定がん診療病院について

当院は、平成 22 年 4 月 1 日より「東京都認定がん診療病院」に認定されました。

「東京都認定がん診療病院」とは

都民に高度ながん医療を提供するため、国が指定するがん診療連携拠点病院と同等の高度な診療機能を有する病院を東京都が独自に認定した病院です。

要件として、厚生労働省が定めるがん診療連携拠点病院の整備指針に加え、5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん）のほかに複数のがん（子宮がん、血液腫瘍など）についても集学的治療を実施していることや放射線治療や外来化学療法の実施などの高い診療機能を有していることが挙げられています。

役割としては、高度ながん医療や緩和ケアの提供、セカンドオピニオンの実施、相談支援センターの設置、がん医療従事者に対する研修や院内がん登録の実施、がん診療連携拠点病院への協力等が挙げられ、当院においてもより高い水準のがん医療を提供することを目指しています。

当院では、がん患者さんの診療はもちろんのこと、がん患者相談支援センターを設置し患者さんや医療機関からの相談を受けるとともに、医療従事者向けの緩和ケア研修会、セカンドオピニオン等に積極的に取り組んでおります。

地域の先生方におかれましても、これまで以上に患者さんのご紹介、また在宅診療に向けたご協力をお願いしたく、よろしくお願い申し上げます。

総合周産期母子医療センター産科からのお願い

多摩総合医療センター産婦人科部長
桑江 千鶴子

以前より念願でありました「総合周産期母子医療センター」が3月1日に開設し、4月1日には早々と「総合周産期センター」として東京都に指定していただきました。多摩総合には産科、小児総合には新生児科と、2つの病院にまたがる変則な形ではありますが、ワンフロアで隣同士ですし、臨床的にはなんら支障なく稼働しています。MFICU 9床、NICU 24床中15床、GCU 48床、ともども開設と同時に満床状態でフル回転しております。ご存じかとは思いますが、東京都は人口1300万人を超え、日本では数少ない人口が増加している地方自治体です。その3分の1が多摩在住で若い人が多く、東京都全体の分娩数も漸増しています。約10万分娩の3分の1が多摩で



生まれる赤ちゃんです。国の、分娩1000につき3床のNICUを整備する目標を受けて、東京でもあと100床のNICUを整備する予定です。多摩は、約3万3千の分娩数ですから、NICUの目標を約100床とすると、現在は51床ですから、目標の約半分の状態です。この数字で何とかやりくりしなければなりません。それを強力なネットワーク創設で乗り切ろうと試んでいます。

総合2病院・地域2病院の周産期センターの虎の子のNICUは、本当に必要なハイリスク妊婦、超未熟児、極早産児予定妊婦や20数週の前期破水事例などに使っていただきたい、と思います。妊娠34週～36週のプレターム早産や前期破水の方は、「周産期連携病院」や、これから作っていく予定の「新生児連携病院」でお願いしたいと思います。また、受け入れた時には重症だったり、超未熟児が生まれそうであっても、幸いなことに週数を経てプレターム（34～36週）になった方は、元の病院への「戻り搬送」や、連携病院への母体搬送も実現してゆく予定です。医療資源・人的資源がこれほど少ないのですから、何とか工夫して使っていくしかありません。都区内に比較したら、産婦人科医も人口比にして半分しかいないのです。疲弊して去ってしまえば0になってしまうところを、踏みとどまって働いてくれば、1になります。4人が5人に、5人が6人になるだけでも疲れ方が違います。医師1人の存在は大きなものです。周産期に関連する病院で働いている産婦人科医を地域として大事にさせていただきたいと思います。女性医師の現場からの退場も避けなければなりません。結婚しても、子供が生まれても、働き続けられるような職場でなければなりません。労働環境の整備、周囲の意識も変えられるものであれば変えていただき、1人でも医療現場で元気に働き続けていただけるように、と思います。

当院の産科外来は、初診は通常の「産科初診枠」と「ハイリスク妊娠紹介枠」を設けています。「ハイリスク妊娠紹介枠」は、いつでもすぐ対応できるように、毎日多めに作ってありますが、こちらにハイリスクではないようなご紹介が後を絶ちません。産科初診枠が入らない時にお使いいただきますと、肝心なハイリスク妊娠を取れなくなってしまいます。どうか、ご理解とご協力をお願いいたします。もし、お急ぎの時にはお電話いただければ、すぐに対応いたします。早剥が疑われたり、血圧がどんどん上昇するPIH事例などの時には、ご遠慮なくお電話ください。昨年東京都では7人の母体死亡がありました。決して少ない数字ではありません。多摩の周産期医療は、もともと都区内と比較しても貧弱で、しかも崩壊しつつあります。どうか、地域の力で支え、立て直せるようにお力をお貸しいただきたいと思います。また、限定的な医療資源を有効にお使いいただけるように、しかし、本当に必要なときには力をあわせて命を救うべく、これからも一同頑張りたいと思います。地域の先生方には、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくをお願いいたします。



【採用】平成22年1月1日付

産婦人科医員 一條 梨沙
輸血科医員 木村 裕和
歯科口腔外科医員 塩見 周平

【院内異動】平成22年1月1日付

リウマチ膠原病科医員 山本 哲生

【退職】平成21年12月31日付

脳神経外科医員 今泉 陽一
産婦人科医員 後藤 亮子
歯科口腔外科医員 鈴木 康之
耳鼻咽喉科(非) 田島 文司
歯科口腔外科(非) 塩見 周平

【採用】平成22年2月1日付

内科(非) 脇岡 悠子

【退職】平成22年1月31日付

耳鼻咽喉科(非) 籠谷 領二

【採用】平成22年3月1日付

皮膚科医員 藤田 美穂

【採用】平成22年4月1日付

整形外科部長 苅田 達郎
脳神経外科医長 太田 貴裕
内科医員 赤澤 政信
内科医員 大橋 琢也
内科医員 唐鎌 優子
内科医員 谷口 未樹
内科医員 並木 伸
内科医員(救急) 堀部 昌靖
内科医員(救急) 横田 拓也
呼吸器科医員 阪下 健太郎
循環器科医員 磯貝 俊明
循環器科医員 小林 晶子
循環器科医員(救命) 川辺 正之
精神神経科医員 玉田 有
精神神経科医員 北條 彩
外科医員 橋本 拓弥
外科医員 吉野 美幸
整形外科医員 松本 卓也
産婦人科医員 石井 加奈子
産婦人科医員 大橋 まどか
産婦人科医員 清水 美和
産婦人科医員 中村 浩敬
リウマチ膠原病科医員 永井 佳樹
リウマチ膠原病科医員 布川 貴博
リウマチ膠原病科医員 桃山 現
歯科口腔外科医員 小林 大輔
内科(非) 安藤 史顕
内科(非) 後藤 文男
内科(非) 宍戸 華子
内科(非) 正田 若菜
内科(非) 中園 綾乃
内科(非) 宮地 康高
精神神経科(非) 夏堀 龍暢
産婦人科(非) 本多 泉

耳鼻咽喉科(非) 藤本 千里
歯科口腔外科(非) 福本 裕
歯科口腔外科(非) 右田 雅士

【昇格】平成22年4月1日付

内科部長 西田 賢司
外科部長 高西 喜重郎
診療放射線科部長 高田 ゆかり
歯科口腔外科部長 大畠 仁
輸血科部長 香西 康司
外科医長 小坂 至
外科医長 小林 里絵
泌尿器科医長 東 剛司
産婦人科医長 伊田 勉

【転入】平成22年4月1日付

循環器科医員 加藤 賢

【院内異動】平成22年4月1日付

外科医長 田辺 直人
リハビリテーション科医長 東原 智恵美

【退職】平成22年3月31日付

整形外科部長 岡崎 裕司
外科医長 保坂 晃弘
脳神経外科医長 原 貴行
歯科口腔外科医長 福本 裕
内科医員 清水 寛路
産婦人科医員 本多 泉
救急診療科医員 正田 達伸
輸血科医員 羽山 弥亨
内科(非) 大橋 琢也
内科(非) 徳山 理恵
内科(非) 野崎 保雄
内科(非) 野城 加菜
内科(非) 福田 将義
内科(非) 山崎 循
内科(非) 横谷 亜矢子
呼吸器科(非) 阪下 健太郎
呼吸器科(非) 高田 由子
循環器科(非) 磯貝 俊明
循環器科(非) 大滝 陽一
精神神経科(非) 小曾戸 明子
精神神経科(非) 橋本 ほしみ
精神神経科(非) 北條 彩
整形外科(非) 川畑 謙介
脳神経外科(非) 太田 貴裕
形成外科(非) 浅見 崇
形成外科(非) 山本 改
産婦人科(非) 大橋 まどか
眼科(非) 河西 まり子
耳鼻咽喉科(非) 村田 麻理
リウマチ膠原病科(非) 長谷川 潤
リウマチ膠原病科(非) 布川 貴博
歯科口腔外科(非) 村松 恭太郎
麻酔科(非) 井上 由実
麻酔科(非) 田辺 瀬良美
麻酔科(非) 矢内 邦恵

外来担当医のみ掲載しています。(非)は非常勤医師



人工股関節再置換後にインプラントのゆるみ・感染を 合併した症例に対する治療

整形外科医長 永井 一郎

【症 例】76歳女性。

【現病歴】50歳頃に両変形性股関節症と診断されました。他院にて61歳で右人工股関節全置換術、70歳に右人工股関節再置換術を受けましたが、2回目の術後に人工関節の脱臼を繰り返したため、71歳で右人工股関節全再置換術を受けました。その後、手術創からの滲出、歩行時痛が出現し、平成18年11月14日に友人の紹介で当科を受診されました。

【既往歴】54歳で左人工股関節全置換術、55歳で左人工股関節再置換術を受けています。

【当科初診時所見】2本松葉杖でかろうじて歩行可能でした。右片足立ちは不可能でした。右股関節手術創から軽度の滲出がありました。股関節機能判定基準（JOA 100点満点）では疼痛10点、可動域5点、歩行能力5点、日常生活動作6点の合計26点でした。股関節単純X線では、右臼蓋コンポーネントはゆるみが生じていました（図1）。2回目のインプラントの一部が残っており、ゆるんだ臼蓋コンポーネントとの間で、金属どうしの摩擦が生じていました。以上より、右人工関節の感染、ゆるみ、金属の摩擦粉による滑膜炎と診断しました。

【臨床経過】平成18年12月21日滲出が増悪したため入院、平成18年12月25日右股関節部の洗浄・デブリードマンを行いました。金属摩擦粉色の滑膜を約1000ml切除しました。この時の培養からMR-CNSが検出されました。術後に感受性のあるバンコマイシンを投与していましたが、改善傾向は見られませんでした。平成19年1月17日に右臼蓋コンポーネントの抜去を行いました（図2）。その後、術後感染徴候は次第に軽減してきました。患者さんの強い希望があり、平成20年5月7日に右臼蓋コンポーネントの再置換術と臼蓋骨の欠損部に他家骨移植をしました。現在、右股関節痛はなく、1本松葉杖で生活されています。レントゲンもゆるみがない状態です（図3）。

【考察・結語】人工関節では感染・インプラントのゆるみ・繰り返す脱臼などを生じると治療がとても困難になります。特に、人工関節が一度感染してしまうと短期間では治療が困難です。この症例は1回目の手術が9年と比較的長持ちせず、2回目の手術後に脱臼を繰り返し、3回目の手術後に感染が生じ、人工関節の悪い面ばかり発生しました。骨欠損や骨の変形が著しい症例に対しては、CT画像より立体モデル（図4）を実際に作り、術前にインプラント設置のシュミレーションを行っています。これにより、術後のゆるみや脱臼の頻度が低下すると考えています。当科スタッフは10年以上前から立体モデルの作成を研究テーマの1つとしています。立体モデルは現在では先進医療の認可を受け、保険診療との併用が可能です。当科では先進医療の申請を予定しています。またインプラントの抜去だけでは感染が落ち着かない症例に対し、イリザロフ創外固定で治療を行っています。今回の長期成績については今後経過観察予定です。



図1



図2



図3



図4



●● 講習会・研修会のご案内 ●●

- 医療連携懇話会：平成22年7月1日(木)午後7時00分～を予定しております。
※詳細が決まり次第、別途ご案内いたします。

●● 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け) ●●

※参加無料、事前予約不要です

● 糖尿病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

- 「糖尿病網膜症」「点眼薬を正しく使いましょう」「外食・宅配等の利用方法」
日時：平成22年6月16日(水) 午後2時から午後4時
- 「糖尿病腎症」「透析療法の実際」「腎症予防にむけての食事」
日時：平成22年7月14日(水) 午後2時から午後4時
- 「糖尿病のセルフコントロール」「糖尿病内服薬の飲み方」「糖尿病手帳の使い方」
日時：平成22年8月18日(水) 午後2時から午後4時
- 「糖尿病の内服薬」「糖尿病の運動療法」「嗜好品等について」
日時：平成22年9月15日(水) 午後2時から午後4時

ご案内

平成22年3月1日より新病院として
オープンしております。
今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



多摩側入口付近



府中メディカルプラザ建物全景
(多摩総合医療センター・小児総合医療センター)

当院は原則として、**紹介予約制**です。
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、
紹介状をお願い致します。

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL : 042-323-9200

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携係(加藤・中台 内線2171)まで

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX : 042-323-9205

緊急の場合…必ずご一報ください。

可能な限り専門診療科をご指定の上、
担当医にご連絡ください。

東京都立多摩総合医療センター

〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111(代表)
ホームページ <http://www.fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp/>

